

インターフェイスデザイン

芸術学部
生活環境デザイン学科
教授

青木 幹太



研究シーズの紹介

IT企業との産学連携プロジェクトから導かれた技術シーズです。このプロジェクトでは、「仕事や生活にDX (Digital Transformation) を広げ、新しい暮らしのあり方を創造する」ことが活動テーマであり、具体的には企業が開発したアプリケーションをUI (user Interface) の視点から、わかりやすく、

見やすく、操作がしやすい画面デザインに検討、変更しています。基本的にはインターフェイスデザインの基本的な考え方であるユーザビリティや感性的な視点から、主に業務向けに開発されたソフトウェアを対象に行います。



インターフェイス デザイン技術

- 業務用に開発されたプログラムの操作性や見た感じを向上させます。
- インターフェイスの使いやすさを向上させる技術で、開発プログラムのわかりやすさを高める効果があります。



期待される活用シーン

- システムエンジニアが開発した業務用プログラムのインターフェイス部分の質を高めたい



インターフェイス画面の見やすさ、分かりやすさが向上し、画面の見た目がスマートになる。



- 農業や水産業、林業などの分野でIT化が進められておりインターフェイスデザインの重要性が高くなっている



業務用に開発されたプログラムが、操作に不慣れな人でも分かりやすくなる。



その他の研究テーマ

・業務用プログラムのインターフェイスデザインに関する研究